

平成 23 年度事業計画

(平成 23 年 4 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日)

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

平成 23 年度もその理念に基づき、以下の事業を遂行する所存である。

・ 禅文化普及事業 (公益目的事業)

1 調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋時代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』(国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年)として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は、巻 7・雪峯章を読了し、続いて雪峯門下の禅師たちに移り、巻 10・玄沙師備禅師・長生和尚を読む。隔週金曜日開催。

「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は、『問答雜徴義』の定稿化を進める。隔週水曜日開催。

「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の

中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は、巻16の定稿化を進める。隔月1回開催。

宋代禪語録勉強会〔幹事 藤田琢司〕

僧俗を問わず語録を読む楽しさを知ってもらうため、古来の禅僧や高德の大夫等の逸話を集めた『林間録』をテキストに会読を進める。今年度も引き続き巻下を読む。職員並びに宗門僧侶ら10名が参加し月1回開催。

2. 禅宗経典研究班

禅文献に関わる経典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される経典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

「楞伽經」研究会〔班長 常盤義伸（花園大学名誉教授）〕

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸教授は、『楞伽經』四巻本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤教授を班長に、再構成梵文、漢訳とその訓読を改めて校訂し、英訳・和訳ともをチェックするものである。毎月第4月曜日に開催。

臨済宗経典研究会〔班長 西村恵学〕

現代の臨済宗で常用されている経典について、その声明や経本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

今年度も哲学分野と大乘仏教の深甚な伝統との遭遇（現代での双方の意義）等を学ぶため、仏典研究会である「大蔵会」を年4～5回開催する。研究会全体の指導には上田閑照先生、またテキスト講読指導には、小林圓照先生のご尽力をおおぎ、継続して「華嚴五教章」の講読研究に取り組みたい。現在約20名の参加者は、大学教員、大学院卒業生である。若手の仏教専攻の研究者がチューターとなり、テキストの解読・解釈のみならず、狭義の学会を超えた現代世界での「仏教」（修行）の意義などをめぐって討議が重ねられている。会場としては京大会館を使用している。

また、研究班の延長として上田閑照先生のご指導のもとに、西田哲学研究会では「善の研究」を、西谷研究会では「寒山詩」を読み始めたが、今年度も年間4回の頻度で開催する。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

明庵栄西研究〔担当 藤田琢司〕

日本臨済宗の祖師である栄西禅師の著作の所在調査と収集作業を行ない、総合的な資料集として刊行する。前年度より継続中の天台宗系寺院の調査に加えて、今年度は臨済宗建仁寺塔頭両足院関係の資料の調査に着手し、未刊行史料を中心として収集および調査研

究・翻刻作業などを継続して行なう予定である。

『寂室語録』研究〔担当 佐々木陵西〕

永源寺開山寂室元光の語録の解読および訓注・刊行を行なう。『永源開山寂室和尚語録』は南北朝期の漢詩文学の様相を伺うに足る希有な史料であるが、従来本格的な検討がなされたことがなかった。今回の訓注は天台学・禅学双方に造詣の深い天台宗智教寺住職佐々木陵西師が中心となって作成作業を行なう。

『元亨釈書』研究〔担当 藤田琢司〕

虎関師錬による日本最古の仏教通史『元亨釈書』の訓注作業を行なう。『元亨釈書』のテキストとしては今までは国史大系本が使用されることがほとんどだったが、本研究会ではそれを一新し、著者自筆本の含まれる東福寺本を底本として使用した。また全文影印の書き下し文を附し、さらにほぼ全ての固有名詞に辞典風解説を付す作業を行っている。今年度成果として刊行する。

『延宝伝灯録』研究〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、元元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、全文を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。

5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。また、昨今、一般に普及されつつある iPhone や Android などスマートフォンで動作するアプリを開発し、まずは京都の禅寺院（主に臨済黄檗の本山）を紹介し所蔵される宝物や伽藍の説明をしていく。

2 資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」(仮称)を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

「禅の至宝」(文化財目録整備事業)

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、(株)アイデアマンユニオンと共同して制作し、22年度春から運用開始。今年度より、協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存する。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力していく。

一般寺院什物データベース

に該当しない一般寺院で所蔵している宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し、当該寺院に絵画・墨蹟類などのデジタル写真での

撮影と目録のデータベース化を推奨し、理解を得られた寺院のデータ入力を順次行なっていく。

2. 資料の収集・整理・公開

資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた 37,000 点にのぼる文献資料のうち、未整理分 7000 点について、新たに開発した資料管理ソフトを用いて順次入力してゆく。今後、オンライン蔵書検索への対応も検討する。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれているが、これらの閲覧は、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放する。

WEB版所蔵墨跡展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨跡展として随時公開する。

禅文化研究所墨跡曝涼展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう曝涼展を花園大学と共同で開催する。

黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。

問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じる。

3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に係る部分を見直し、データの修正や新規登録などを積極的に行なう。

3 広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、220号～223号を発行する。

2. 研究成果の刊行

中国禅宗史・語録研究班の成果

『景德伝灯録』五 (平成 23 年 10 月刊行)

日本禅宗史・禅語録研究班の成果

『荊叢毒藥訓注』 (平成 23 年 10 月刊行)

『元亨釈書』 (平成 23 年 9 月刊行)

『大正・昭和の禅匠』 (平成 23 年 10 月刊行)

マルチメディア研究班の成果

2012年禅語カレンダー

禅の庭「銀閣寺」

禅僧が語るシリーズ

禅寺案内アプリの普及

禅宗経典研究班の成果

『臨済宗檀信徒経典CD』制作（読経・吹田良忠） 平成23年5月16日刊行

3. 「証道歌」講義〔講師 西村恵信（所長・花園大学名誉教授）〕

所長による講義で、『増註 証道歌直截』二巻二冊（萬回一線撰）をテキストに禅の基本思想を平易に教える。一般社会人を対象に毎週火曜日3時から5時まで開催。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

公益法人の移行に合わせホームページの全面リニューアルを行なう。

臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なう。

5. 第12回東西霊性交流

禅僧とカトリック修道士との修行体験による交流を通して、禅とキリスト教の相互理解を深める東西霊性交流を国内で実施する。受入れ人数は6~7名。期間は9/17~10/5の予定。

6. テイク・ナット・ハン 2011 京都講演会

ベトナム出身の臨済僧であり世界的な平和運動家でもある、テイク・ナット・ハンの2度目の来日に合わせて、京都講演会（4/24・花園大学無聖館ホール）と妙心寺派管長との対談（4/25）を予定していたが、東日本大震災の影響を受けて来日が無期延期となったため、上記予定を中止した。

7. 公開講演会

臨済宗寺院を会場に、所長または他の講師による講演会を複数回開催（現地集合・現地解散）。また、花園大学と合同で専門道場師家を講師に一般を対象にした講演会を行なう。

8. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進する。また、メールマガジンの発行、Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及するよう努力する。

・収益・共益等事業

1 ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等と共に各地で行なわれる住職研修会での販売を積極的に行なう。最新の Windows7 にも既に対応済み。擔雪の開発を考慮する。

2. オーダー型宗務所管理システムの構築

南禅寺派管理システムの機能追加

平成 24 年に行なわれる遠諱に向けてのシステムの追加要望に対応する。

建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの追加要望の対応とその運用をサポートする。

曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートすると共に他の宗務所への営業を促進する。

天龍寺派管理システムの運用サポート

平成 23 年 4 月に納品の末寺管理等のシステムの運用をサポートする。

3. 出版物頒布

他社から委託を受けた出版物をホームページやDMなどで案内し、頒布する。

2 共益事業

1. 大本山相国寺所蔵資料の整理

前年度は、承天閣美術館管轄とされる図書資料類の整理を行った。しかし、実際に作業を進めていくにつれ、大本山相国寺管轄とされる資料も多数存在し、その多くは整理されていないことが判明した。従って、今年度は大本山相国寺の資料の整理を行なう予定である。

また、今春、大谷大学にて調査された古文書類が返却される予定となっており、それについても、整理および排架作業を行なう予定。

2. 寺院委託出版

『訓注雪潭和尚語録並年譜』（平成 23 年 4 月）

『図録 中山寺』（平成 23 年 4 月）

中山寺パンフレット（平成 23 年 4 月）

3. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて、適宜、訓注の適用を行ない、データベースの補完をする。

4．臨黄合議所事務局

臨濟宗・黄檗宗各本山の合議機関である臨黄合議所からの事務委託を行なう。

「臨黄会報」の発行(年2回)。

臨黄互助会の促進。

中国仏教界との交流窓口。

臨黄教化研究会の実施。

会議等の事務処理。

5．後援会活動

所長を講師に今年度も寺院拝観を含む「禅と文化の旅」を開催予定。